

夏休み短縮されます

これを受けて、長浜市の小中学校の主な教科の標準授業時間は左記のように変わります。

小中学校の主な教科の標準授業時間		
	小 学 校	中 学 校
国 語	1,461(1377)	385(350)
社 会	365(345)	350(295)
算 数 ・ 数 学	1,011(869)	385(315)
理 科	405(350)	385(290)
英語科(小) 外国語(中)	270(70)	420(315)
体 育	597(540)	315(270)

※カッコ内は現行

授業時数は小学校の低学年で週2時間、中高学年で週1時間増加し、中学校は全学年で週1時間増加となります。

下校時刻を遅らすことなく、子どもたちの生活リズムをできるだけ大きく変えずに、潤いのある学校生活を送りながら、この授業時数を確保するためには「休業短縮」が子どもたちにとって最も妥当な方法だと考えています。

もちろん授業時数確保ができればそれでよいということではありません。各学校では授業改

善に取り組み、子どもたちに確かな学力をつけるために最善の努力をしていきます。
ご理解ご協力をお願いいたします。

移行期間の各学年の年度ごとの年間授業時間数
(小学校の場合)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
21年度	850	910	945	980	980	980
22年度	850	910	945	980	980	980
23年度	875	945	980	980	980	980



長浜市教育委員会
教育長
伊藤 宏太郎

本年5月29日(金)に長浜市教育委員会教育長に就任された伊藤教育長の教育に対する思いを紹介します。

長浜市教育行政基本方針は、子どもたちに生きる力をつけることです。生きる力は「確かな学力・豊かな心・健やかな体」を培うことだと言われています。

☆繰り返し続けること

まず、「確かな学力」を育む一つ目は、基礎的・基本的知識・技能を習得することです。そのためには、繰り返し繰り返し続けることが大切です。繰り返しし続けることが大切で、前頭前野に血液が流れ、集中力や一人の行動にバランスが生まれ、落ち着きが出て参ります。

ものを覚える気持ちや、やってみようという気持ちが出てきますと、やってみる、挑戦してみるところに現れます。大きな声を出して本を読んだり、詩を暗唱したりすることが、前頭前野の働きを促すこととなり、脳が活発化することがわかってきたのです。認知症、ゲーム脳の人たちの顔に表情が出てきたという報告も上の例と同様だと思います。

そういったことから、まずは、考える頭、脳をつくるためにも、読み・書き・計算といった基礎基本を繰り返しすることが大切です。

☆感じたことを表現すること

二つ目は、感じたことを言葉で表現し、伝えていく力をつけることです。学んだ知識や技能を使って、感心したことや、発見したことを子どもなりの言葉で説明したり、書き留めたりすることが大切です。学校でも家庭でも、子どもの関心事や感じていることをみんなが聞き止めることです。それぞれの場面において子どもたちが、いろいろなものを見たり、体験したりして感じたことを、声に出して話したり、文章や絵にして表現したりする機会をたくさんつくってあげることがポイントです。

グローバル化したこれからの社会を生き抜く子どもたちには、世界の人々と話をする機会も多くなり、論理的な思考が必要不可欠です。日本人は論理より情緒的に「たのむわよ」等と言って、あまり説明もせずに通り過ぎようとしています。今度の指導要領改訂もこうした点が重点化されているのではないかと思っています。

☆意欲をもつこと

三つ目は、学ぼうとする意欲を持たせることです。どんなことでもそうですが、いやなこと

だとなかなかやる気は出ませんが、おもしろいことだと自然とやる気が出て、長続きするものです。そのためには、学習習慣をしつかり身につけることが重要であり、習慣づける間に学ぶことはおもしろいと感じられたら、学ぶ意欲につながっていくと思います。その時大切なことは、根気よく見守り認めてあげることです。人は誰でも認められるとうれしいものです。それは子どもたちだっけと同じです。子どもたちに学ぶ意欲を持たせるためにも、注意するのはなく、子どもたちの考えや行動をまずは認めてほしいと思います。

☆豊かな心を持つこと

生きる力の2点目は、豊かな心を育成することです。この心の醸成には、心に沁みる音であったり、土の匂いが染みる母の脚絆(きゃはん)であったり、五感を通して体験が情操を培うように思います。胸に残る先生のお話がずうっと心の片隅にあって、何かの時の力となることもあります。伝統文化の継承もこの心に残るお話のようです。



例えば、長浜西中で行われている琴の演奏や茶道の作法は、日本の文化の持つ情緒であり、品格を表しています。曳山まつりやおこない・富田人形などに代表される伝統文化は、継承にとどまらずその文化のもつ情緒的・感性的な精神文化の学びとして受け止めると、日本人としての豊かな心を引き継ぐ営みといえます。「日本文化と西欧文化の違いは真善美の透明感が違う」と言われたのは数学者の岡潔先生ですが、今の世にそこまで求

☆今後のまちづくり

最後に、そういったことを踏まえ、今後のまちづくりの担い手を市民の皆様と力を合わせて育成したいと思います。子どもたちに託したいまちづくりの目標は、次の3点です。

まずは、自ら学んでいこうとする進取の気性をいつまでも大切にする町、長浜のイメージ。次に、一つのことを思い続ける強い心かなえる町、長浜のイメージ。

そして最後に、子どもの心にしつかり応える町、長浜のイメージです。長浜の持つ不易なよさを大切にし、まちづくりに努力したいと考えています。

今年度は、そんないろいろな思いを持って「確かな学力・豊かな心・健やかな体」を培い、いのち輝き、未来を自らで拓こうとするたくましい人づくり教育を推進していきたいと考えていますので、皆様のご理解とご協力をよろしくお願いします。